

2016年3月4日
環境社会配慮助言委員会委員長 村山 武彦
担当ワーキンググループ主査 長谷川 弘

Bangladesh 国 シラジガンジ高効率ガス火力発電事業
(海外投融資)
環境レビューに対する助言

助言案検討の経緯

ワーキンググループ会合

- ・日時：2016年2月22日(月) 13:59～16:38
- ・場所：JICA 本部 (会議室：1階 111 会議室)
- ・ワーキンググループ委員：柴田委員、鋤柄委員、長谷川委員、原嶋委員、米田委員
(柴田委員はメール審議にて参加)
- ・議題：Bangladesh 国シラジガンジ高効率ガス火力発電事業に係る環境レビュー方針
についての助言案作成
- ・配付資料：
 - 1) 環境レビュー方針案
 - 2) 環境社会影響評価 (ESIA) 報告書
- ・適用ガイドライン：国際協力機構環境社会配慮ガイドライン (2010年4月)

全体会合 (第67回委員会)

- ・日時：2016年3月4日(金) 14:30～16:58
- ・場所：JICA 本部 (会議室：1階 113 会議室)

上記の会合にて助言を確定した。

助言

全体事項

1. 本事業（4号機）で作成された環境社会管理計画において、1~4号機事業による累積的な環境社会影響を対象としていることを確認すること。

環境配慮

2. 本事業の温室効果ガス排出量のモニタリングが、予算面を含め、着実に実施されることを確認すること。
3. 本事業実施に伴う植樹・移植等の植林計画について確認すること。
4. 本事業の周辺地域では、既に一部騒音が環境基準を超えている。供用開始後、本事業の騒音が重大な影響をもたらさないよう影響の緩和に努め、モニタリングされることを確認すること。
5. 本事業の周辺地域では地下水が生活に利用されている。地下水は、1~2号機では冷却用に、本事業では飲料用にそれぞれ使用される。1~4号機事業による累積的な影響を含め、地下水の影響がモニタリングされることを確認すること。
6. ベンガルハゲワシ、ガンジスカワイルカ等の貴重種に対する影響緩和策の実施体制を確認すること。
7. 予見される環境影響に対する緩和策の内容とともに、それらの効果についても確認すること。

社会配慮

8. ジャムナ川における仮設栈橋の設置と利用により、漁民の漁獲量が減少する場合には、補償や支援について漁民との間で協議がなされることを確認すること。

以上